

城山憲法九条の会ニュース

再び戦争はしない
被爆者はつくりたくない
日本国憲法を守ろう

事務局 長崎市油木町 28-32 園田鉄美方 電話 (FAX 兼用) 095-845-5400

被爆・戦争の実相に学び 平和への思い新たに

森口貢さんの案内で ～原爆遺構巡り～

城山憲法九条の会は、六月二日(土) 十三時半から十五時半まで、「長崎の証言の会」の森口貢さんの案内で大橋から平和公園に至る原爆遺構巡りを実施、十六名が参加しました。



森口さんは、大橋のビツグN球場前から、大橋を経て、山里小学校の「あの子らの碑」、被爆クスノキ、防空壕などをめぐりながら、森口さんが幼い頃疎開先で見た原爆のこと、証言

の会の会員や被爆者の方々の被爆体験談や戦前の軍国教育の実態、また森口さんの伯父さんの中国での戦争体験談などを交えながら、時には涙声で、また熱い語り口で案内をされました。

途中、森口さんの語りつくせない思いのせいか、予定していたコース(大橋→山里小→如己堂→浦上天主堂→原爆公園→平和公園)を終了時間までに回りきれなくなり、山



里小学校から平和公園にコースを変更。コース終着地の平和公園では、当時ここに刑務所があったこと、その中で、朝鮮から強制連行されてきた朝鮮人ら外国人受刑者たちも被爆したことが語られました。



森口さんは話の中で、何の罪もない幾万の人々が原爆によって突然命を奪われたことを繰り返して語られると同時に、天皇の名によって、日本軍(皇軍)が外地で行った、殺し尽くし(殺光)、焼き尽くし(焼光)、奪い尽くし(槍光)、三光作戦と呼ばれる侵略についても触れ、戦争は優しい心を持った人間を変えてしまうと、軍国教育の恐ろしさを訴え、

自らが教師として平和教育に力を注いできたことや証言の会としての原爆遺構保存の運動などについて話されました。

城山憲法九条の会では、この日回れなかったコースについても、日を改めて実施することにしています。



憲法九条を広げよう

ながさきの条フェスタ

党派、思想信条などの違いを超えて開催されてきた「ながさき9条フェスタ」が憲法記念日の五月三日(木) 十三時半から、二百五十名余りの参加で長崎市民会館前広場において開催されました。



集会のアピールでは、この五月に超党派の国会議員らでつくる新憲法制定議員同盟が「新しい憲法を制定する推進大会」を開催、

自民党は、天皇を元首とし、国旗は日の丸、国家は君が代、自衛隊を国防軍に、憲法改正発議要件を過半数とするなどの憲法改正草案を発表したこと、さらに、みんなの党や大阪維新の会も同様の憲法改正の政策を発表するなどの状況が進む中で、私たちが歴史的な転換点に立とうとしていることなどが報告され、今後、再び日本が戦争をしないよう、憲法九条をもっと広げていこうと呼びかけがありました。

当会からも二名が参加し、「城山憲法九条の会」の幟を掲げて長崎駅までのピースウォークに加わりました。

